

(様式 1) 実施報告書-プログラムB

団体名	犬山市
-----	-----

1. 事業の種別	
該当の チェック	種別
○	(1) 子ども向け日本語教育事業（対象外：プレクラス、日本語初期指導教室）
	(2) 多文化子育てサロン事業
	(3) 初期日本語教育事業（対象外：子ども向け日本語初期指導教室）
	(4) 地域の実態調査
	(5) 地域日本語教育の推進計画策定又は改訂
	(6) その他
2. 事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 2 月 2 6 日
3. 事業実施前の現状と課題	
<p>犬山市には、令和 2 年 10 月末現在 2,414 人の外国人が在住している。そのうち、0～15 歳までの年齢の子どもは 245 人に及ぶ。</p> <p>外国人児童の場合、多くは言葉の発達の遅れ・精神面での状況など、小学校入学時にすでに、日本人児童との格差が大きくなってしまっている現状がある。この格差は、年齢が進むにつれ更に大きくなり、将来にわたっての負の教育連鎖に繋がっている。市内に乳幼児を対象とした初期の日本語教育の場がなく、また子育て支援プログラムに、外国人親子の参加は極めて少ないので、乳幼児を持つ親への情報も伝わる事が、非常に困難になっていると思われる。</p>	
4. 事業の目的	
<p>上記の課題を解決するために、外国人の子どもたちに、言葉の発達を促し、日本語に慣れ親しんでもらう環境づくりが必要。保護者にも情報を伝え、日本での生活にむけての言葉や生活習慣・精神面での準備を含めた取り組みとして。そして、外国に繋がる子どもの、日本での生活を楽しく実りあるものにし、地域の子どもとしても、順調な成長の一助としたい。</p>	

5. 実施結果	
事業の詳細（種別(1)(2)(3)）	
活動 1	<p>【種別及び事業名称】 地域日本語教育推進事業</p> <p>【目標】 就学前の子どもに、日本で生活していく上で必要な日本語取得の環境を整える</p> <p>【実施回数】 20 回（1 回 1 時間）</p> <p>【受講者数】 9 人（楽田子ども未来園 5 人、羽黒子ども未来園 4 人） （国籍別内訳：フィリピン 3 人、ブラジル・ペルー各 2 人、ボリビア・中国各 1 人）</p> <p>【実施場所】 寺子屋シェイクハンズ</p> <p>【受講者募集方法】</p>

	<p>集住地区（楽田・羽黒）地区の対象者へ未来園を通じて、チラシを配布。参加希望の保護者を対象に未来園２園で説明会を実施。説明会后、参加を希望する親子に申込をしてもらった。</p> <p>【内容】就学前（５歳児）に、円滑な日本での生活ができる基本的な日本語教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、ものの名前、50音等基本的な言葉を覚えるゲームや歌</li> <li>・体の部位を覚える手遊びや、フラッシュカードを利用した語彙の取得</li> </ul> <p>【開始した月】 9 月</p> <p>【講師】 5 人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>子ども未来課は園長会、学校教育課は校長会へそれぞれ、事業の周知と協力を依頼。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無： なし</p>
6. 効果	
<p>（１）効果</p> <p>①定量評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した日本語教育人材に対する研修</li> </ul> <p>前年度：１回（１箇所）受講者：２１人 当年度：１回（１箇所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した日本語教室：</li> </ul> <p>前年度：２０回（対象未来園：１箇所）受講者：４人</p> <p>当年度：２０回（対象未来園：２箇所）受講者：９人</p> <p>②定性評価</p> <p>(i)連携機関の広がりについて</p> <p>未来園の保育士が日本語教室を見学したり、未来園でも子ども達や保護者と日本語教室について話題にしたりして、子ども達の学習意欲を継続して高めることができた。また、日本語教室の説明会の際、外国人親子のこれまでの生活などを聞取りした結果を未来園の保育士と共有することができた。</p> <p>(ii)新たな連携機関と連携した内容</p> <p>子ども向け日本語教育事業を実施する際に、他の市主催イベント（ポルトガル語の母語教室）と開催スケジュールと重なるようにした。また、関係機関と連携できるように、日本語教育人材に対する研修では、対象未来園の園長に講師を依頼し、市職員向け多文化共生研修では、受託者や日本語教育人材に対する研修と同じ講師に依頼した。</p> <p>(iii)どのような体制を構築できたか</p> <p>年間を通じて、子ども向け日本語教室とポルトガル語母語教室や、外国人親子を対象とした教育相談会のスケジュールを重ねたことで受講者の内２名が、日本語教育と母語教育が並行して参加することができた。また、市民向け日本語教育人材に対する研修、市職員向け多文化共生研修の際に受講者や講師として、多文化共生に携わる外国人市民やNP0、市職員が立場を変えながら参加する機会を継続的に持つことで、組織を越えた横断的な関係を構築することができた。</p> <p>(iv)事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について</p>	

尾張地区で日本語教室や外国人支援に携わる複数機関との連絡調整を目的に開催される、尾張地区日本語ネットワーク会議（NPO 法人シェイクハnz主催）にて、指導者研修会や、本事業の案内を実施。そこでの情報交換を通じ、他地域の取組みも参考とすることができた。

また、関係各課（学校教育課・子ども未来課）と事業実施前に事業内容の周知と協力を依頼し、様々なイベントを通じて参加する機会を継続的に持つことができた。その結果、外国人親子に関わる関係機関が、外国人住民の抱えている課題や、事業の必要性を認識することができた。また、他機関の事業を知ること、外国人親子へも情報の提供量を増やすことができた。

## 7. 課題と今後の展望

### （１）課題と困難な状況への対応方法

20回という限られた回数の中でどこまでの成果が出たかについては、時間をかけて検証することになると思う。継続して日本語を学ぶ環境を整えることと、年齢や習熟度にあわせて、日本語教室を選択でき、受講者の状況を関係機関が変わっても引き継いでいけるような仕組みを構築していくことが必要。

これについては、現在障害福祉サービス利用者や個別支援が必要な児童生徒に対し、支援内容などの情報を共有し、進学・進級・就職後も同じ視点で適切な支援を行うことができるよう個別的教育支援計画書「あゆみ」があるが、この外国人の子どもバージョンを現在作成している。

また今年度、未来園や小学校をはじめとした他機関と連携できる関係ができつつあるので、それぞれの事業を活かし、外国人親子への事業が最大限の効果を発揮できるような関係性の構築や、外国人の子どもの将来を見据えた事業展開としていきたい。

また、受講者の参加人数にあわせて、会場の選定や講師の確保など、新型コロナウイルス感染症対策の強化も必要となってくるので、強化していきたい。

### （２）今後の展望

今回は、外国人集住地区の未来園を中心に本事業を実施したが、次年度は対象者の人数も12人から、22人と多くなり通園先も、市内ほぼ全域の未来園に散らばっている。そのため、現在の園から会場へ送迎を行っての実施ではなく、保護者に会場まで送迎してもらう方法に切りかえていく必要がある。今後増加する対象者に安定した日本語教育の場を提供するため、指導者育成と関係機関と日本語教育に関する情報・知識を共有していくための働きかけをしていく。

## 【参考資料】